



ESDうべ推進協議会との関わりについて

山口県生涯学習研究会「VOLOVOLOの会」代表 赤田博夫

5年前、「生涯学習」についての講演依頼を浮田先生、薄井先生にお声をかけていただきお伺いしたことをきっかけに、いつの間にかうべ環境コミュニティー(UKC)の理事、ESDうべ推進協議会の副会長となり現在に至っています。

ようやく意味を理解し始めたのは会員となり2年が過ぎたころでした。山口県ひとづくり財団が主催する「ひとづくり・地域づくりフォーラム(全国大会)」がリニューアルして始動をするときに持続可能な開発

第17回ひとづくり・地域づくりフォーラムin山口 実践事例発表

発想の転換がまちづくりの原動力	和木町教育委員会 重岡良典 持続可能な社会を 作り出していく力を育む「和木学園」構想 (一社) まちづくりうらぞえ 大城喜江子 福祉と教育の融合をめざし学校と地域連携を図る取組 徳島県神山町NPO法人グリーンバレー 竹内和啓 創造的過疎による持続可能なまちづくり
現代版自然共生社会をつくる知恵	やまぐちシードル/阿東を盛り上げたい女性のネットワーク 原田尚美 人の出会いで広がる持続可能な地域の輪 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト 坂本純科 持続可能な地域を支えるボランティアの育成 京都市株式会社ほんまもん 奥出一順・秋月佐耶奈子 いなかで学ぶという新しい選択肢生き抜く力を育む教育プログラム 山口県子ども食堂支援センター 杉山美羽
住みつけられるまちづくり(防災とSDGs)	山口県に広がる子ども食堂の輪 長岡市(公社)中越防災安全推進機構 井上有紀 地域にとって多様な担い手を生み若者にとって心と身体の旅になる 地域・農村インターンシップのコーディネーターとは 下松市防災士会 浅本輝明 避難所の運営を学ぼう 下松発ESG避難シミュレーションゲーム 下関市 Kananowa 前田亜樹 大人が変われば、子供も変わる。地域や学校が変われば、 社会の未来が変わる
学校と地域でつくる学びの未来	鹿児島県始良市西始良校区コミュニティー協議会 鶴木孝夫 児童減さらに会員減の子供会活動の活性化は図られるのか 長門市 学校教育支援チーム「ふぁみ」岩藤陸子・田中理恵 長門の親子を応援しています 家庭教育支援チーム「ふぁみ」 富田林市中央公民館 中川剛史
活力ある地域コミュニティー形成、公民館の底力	公民館の可能性の拡張と多様性を実現する「アート」驚く公民館 下松市 地域に飛び出す公務員全国ネットワーク 原田幸雄 まちづくりの答えは、きっとまちの中にある 中津市今津コミュニティーセンター 金丸 隆 地域学校協働本部とコミュニティースクールの効果的な仕組みづくり 宇部市立上宇部中学校 藤井一憲
若い力を信頼しともに歩む地域づくり	コミュニティースクールの仕組みを活かした学校・家庭地域の連携・協働 岡山市 NPOだっぴ 森分志学 若者が大人とつながり、自分の可能性を開拓する 山口県立大学国際総合学部地域文化創造論研究室 提案!大学生が考える「若者がおもわず地域に惚れこんでしまう仕掛け」

のための教育として「環境・人権・平和・貧困・開発」といった様々な課題をもとに個人や団体を選出することを提案し、プログラムを作成してきました。ただ「持続可能な〇〇」の取組と言っても生涯学習、社会教育との関りを理解していただくことは難しいと考え、平易な言葉で表現することで周知を図ることにしました。せっかくりニューアルをし、これからという時、コロナ禍で一昨年度は大会中止、昨年度はリモートで実施はできたのですが、主催者が考えていた大会には程遠い形の大会でした。ようやく本来の姿に戻ったR4年度は500人に及ぶ参加者を得て実施することができました。テーマは若い力との融合です。次の世代を担う若者のエネルギーな取組には、ESDが提唱している課題がちりばめられていて、環境問題にも多極的な視点からの取組を紹介することができたのではないかと考えています。

さてUKCが事務局を務めるESDうべ推進協議会では研修会に教育分野等多分野の講師を招き、これまでにない環境問題への切り口で取り組んでいます。体制強化の必要性が認識されているようです。

私ごとですが、3月末で財団の仕事からは離れたのですが、18年続いている山口県生涯学習研究会(Volovolo)の代表をしています。会員は県内各地で生涯学習活動を推進していて、地域を充実させようと日々努力しています。そして文科大臣表彰や国土交通大臣表彰などを受けるまでに成長しています。



令和4年度第1回地域コーディネーター養成セミナー

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

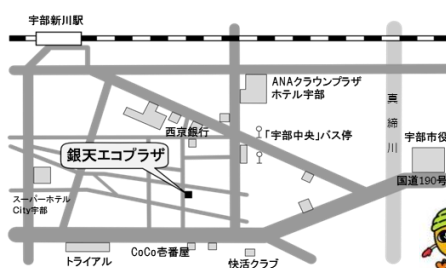
宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し(近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時~17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始(12月29日~1月3日)



NPO法人うべ環境コミュニティー



楠クリーン村で働き始めて4年が経ちました。元々兵庫県の丹波市という田舎で18歳まで過ごし、パン職人を目指したのも束の間、就職後わずか半年で身体を壊してその道を諦めました。

休養を含めて約5年京都に滞在し、縁あって楠クリーン村に参加し僅か3日でスタッフになる決意が固まっていました。

主な理由としては仕事と生活が密接な関係にあったことです。

京都市内で暮らすためには、そこそこのお金が必要でした。怒鳴られ、心身が疲れながらも生活のために働く他ないと考え、孤独で退屈な日々を送っていました。

楠に初めて来た日は、茶畑の剪定をしました。

朝から夕方まで茶畑で作業して休憩時には草の上に寝転がることのできる、毎日生活費の心配が減り、生きている実感がありました。

人手不足等で手一杯になることもありましたが、クリーン村を維持し続けることで様々な出逢いや挑戦ができていますと実感しています。

特に昨年終盤頃からは続けてきてよかったと感じることが多いです。

そんな私がここで働くにあたって大切にしていることが2つあります。

1つ目は、感謝の心を持って生きることです。

トルコ南東部の地震災害現地調査に参加して うべ環境コミュニティ理事 村上 ひとみ

今年2月6日（月）未明、トルコ南東部のカフラマンラッシュ県を震源とするM7.8の地震が発生し、約9時間後にM7.6の地震が発生しました。

現地はプレート境界の東アナトリア断層帯として地震ハザードの高い地域であり、今回の地震断層も200～300kmに及び、11の県で建物倒壊など被害が多発し、被害はトルコ・シリアに広がっていますが、トルコ側で死者5万人を超える報告があります。

自分は北大で大学院生の頃、アンカラの地震研究所に滞在して、トルコの地震災害と震度分布を研究したことがあり、1999年トルコのコジャエリ地震についても調査の経験があります。アンカラ滞在の頃、生活の必要からトルコ語を聞いて話して覚え、やさしい会話ができることから、今回、森伸一郎授（愛媛大学）とカウンターパートのヌルジャン・オゼル教授（トルコ・ボガジチ大学）の調査チーム（総勢6人：内男性一人、女性5人）に参加して、4月18日から25日、現地調査にきています。

滞在先はガジアンテプ市のホテルで、町の被害は比較的軽く、日本の震度で5弱くらい、町の活気はかなり戻っています。断層により近く被害が激甚なカフラマンラッシュ県、ハタイ県のアンタクヤ市、アドヤマン県などを訪ねていますが、地盤の影響や耐震規定を守らない建物の問題もあり、5階から8階建てくらいの中層アパート・マンションなどが多く全壊・倒壊し、都市部の被害が広がっています。

地震後に報道されたマンションのパンケーキ崩壊

山の中で暮らすからこそ「命」を無駄にしない事と、春には山菜やお茶、秋にはお米、冬には廃鶏や狩猟によって肉を頂くことができます。これらは先人たちが耕作してきた歴史と知恵や技術の継承を積み重ねた結果によるものです。

2つ目は、なるべく自分たちで手作りするという考え方です。昨今電気代や石油価格の上昇などが続いています。楠では薪でストーブや風呂を焚きます。他にも太陽光や雨水の利用、建築仕事などにもチャレンジし、農業分野では鶏糞や山林資源を活用した循環型農業を実践しています。

楠クリーン村の仕事を通して自身が本当に良いと思えるものをお客さんに還元できることや海外にいる農業仲間と、国境を超えて互いの価値観や特技を活かしながらすることができることも大きな魅力の一つだと感じています。



現場はすでに解体され、空き地が広がっています。地震から2か月半が経過しますが、被災した住民はテント生活が続く一方で、コンテナ仮設住宅の団地に移りつつあり、赤新月社などが被災者に給食を提供しています。

研究グループでは地震の揺れの強さ（震度）を測るため、人の感じ方、家の中や周辺建物被害、地割れや地変についてのヒアリングを試行しています。つたないトルコ語でも話すことで、被災者の方に親近感を感じていただき、また、イスラム教の断食月開けのバイラム（お祭り、4月21日～23日）には、お茶を頂くこともあり、様々な世代の住民から地震当時の様子を聞いています。地震計による記録は相当数ありますが、より細かくゾーニングを行うため、学校の生徒や住民に回答してもらう本調査を計画中的なので、今年度中に被災地をボランティア再訪できたらと思います。

山口県でも周防灘や活断層の直下地震の危険があり、トルコの経験から学ぶことも多々あります。被災者の住まい、暮らしやコミュニティの回復と被災地のより良い復興を切に願う次第です。



震度についてヒアリングの様子



アドヤマン県にて赤新月社スタッフと地元ボランティア